

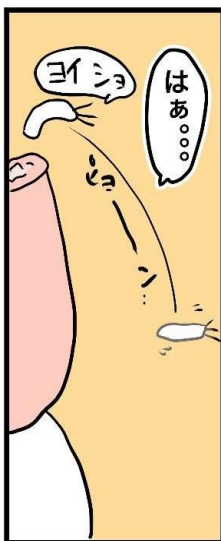
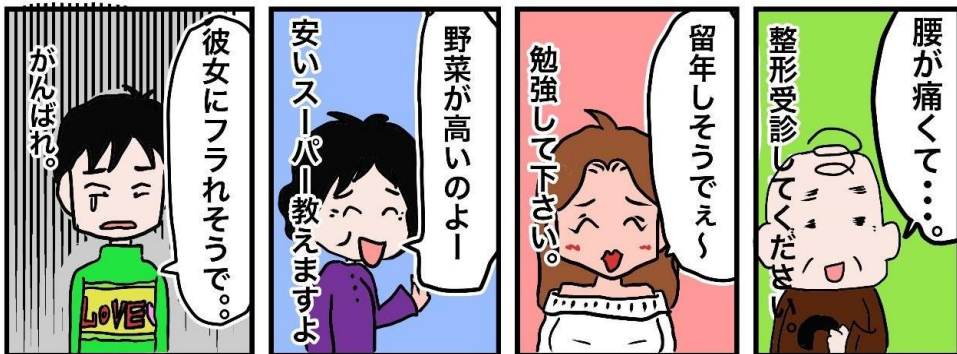
# 教えて！.ドクターE!!

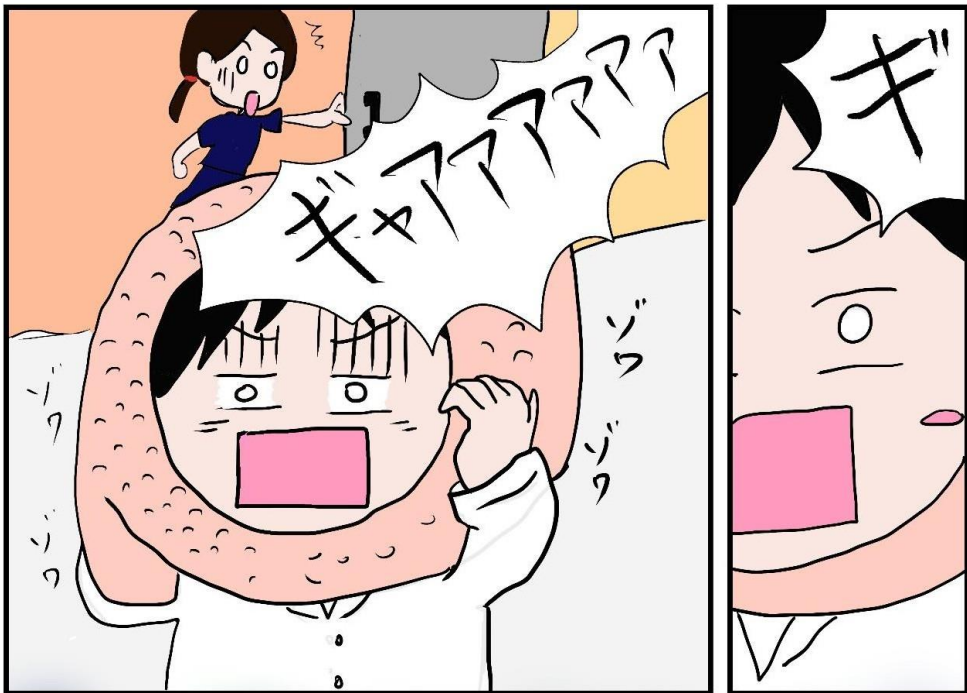


その2  
～ピロリ菌～

絵と文 しおび

当クリニック某医師による漫画です







昔々あるところに、それはそれはいい村がありました。



むかしむかし……。 抗争!!



村人たちはとてもいい人ばかりで、毎日平和に暮らしていました。



やがてピロリ菌たちは大増殖しましたが誰も気にしませんでした。

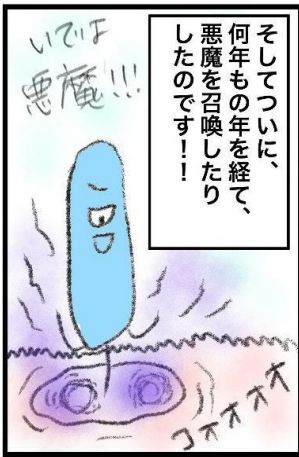


抗体でやっつけようとする人もいましたが、ほとんどの人はいい人たちだったため、ピロリ菌はやっつけられずに済みました。

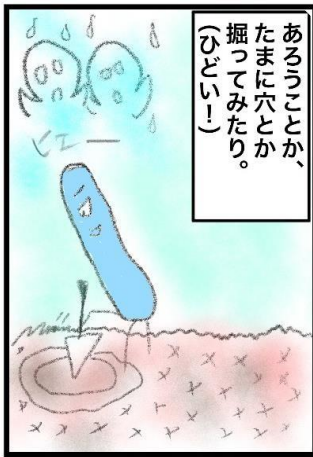


そこへピロリ菌が現れました。





そしてついに、何年もの年を経て、悪魔を召喚したりしたのです!!



あるうことが、たまに穴とか掘ってみたり。(ひんぷー)



ピロリ菌は増えるとみんなが大事にしていた胃壁を壊し始めました。



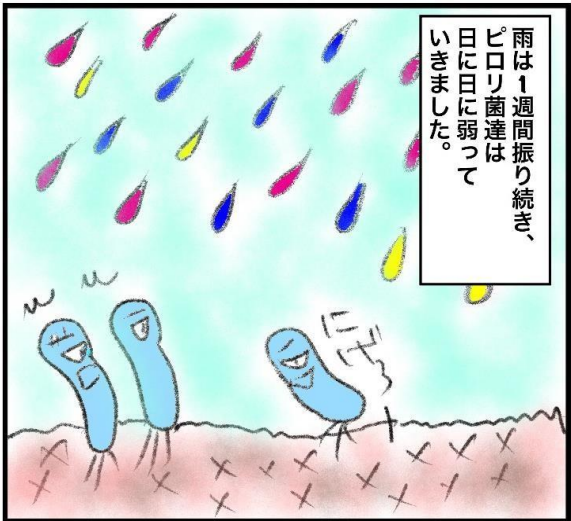
続けて何か恐ろしい金属の怪物が彼らの何匹かを掴み出します。



黒き筒より出でし光が彼らを照らしました。



その時です!

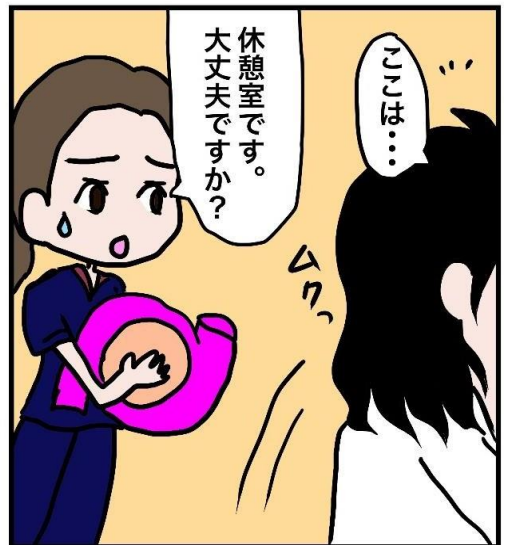
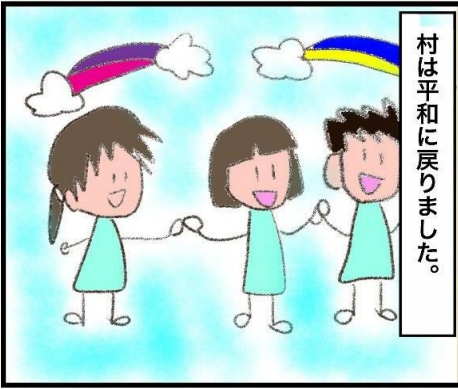


雨は1週間振り続き、ピロリ菌達は日に日に弱っていきました。

その後...。ピロリ菌にとっての最大の脅威、抗生剤の雨が降り始めたのです!



難を逃れた彼らは再び悪さをし始めました。







<ケース2> 35歳 女性

症状：胃痛 胃もたれ  
家族歴：姉 胃潰瘍 母 胃癌

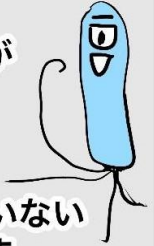
医師に一言：昨年の検診で胃X線透視検査を  
受けた際に「萎縮性胃炎の疑い」と  
書かれました。家族に胃の病気の人  
も多いので心配です。





### < ピロリ菌 (Helicobacter pylori) とは >

胃のなかに住みつく菌で、様々な病気の原因になることがあります。



### < 原因 >

乳幼児～4歳児くらいまでの免疫機構が十分に発達していない時期に、経口感染を経て胃内に住みつくとされています。また、昔は井戸水などにも含まれていたとされており、地域性や家族歴も重要な診断ポイントです。

### < 感染することで引き起こされる可能性のある病気 >

- ・萎縮性胃炎
  - ・胃潰瘍・十二指腸潰瘍
  - ・胃がん
  - ・MALTリンパ腫
  - ・特発性血小板減少性紫斑病
- など…。

### < 最近の傾向 >

衛生状態が改善してきた我が国では年々感染率が減少傾向です。

しかしながら家族歴、症状がある患者さんは若年でも感染の可能性を考え検査をおすすめします。

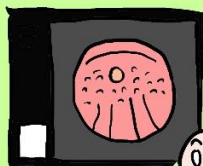




## 診断～治療までの流れ

### ①内視鏡検査

内視鏡検査で胃の粘膜の所見を観察し、胃炎(萎縮)の有無を確認します。



※『胃カメラで慢性胃炎を認めた患者』についてのみ、保険適応での除菌治療が認められているため、治療には内視鏡検査が必須となります。

### ②ピロリ菌感染の確定

- ・尿素呼気試験
- ・血中抗体検査
- ・糞便抗原測定

抗体測定は除菌後も陽性になることがあるため、現在の感染の確定診断としては、  
尿素呼気試験、糞便抗原測定  
が行われることが多いです。

### ③治療

治療は抗菌薬2剤と、胃薬1剤を1日2回、7日間内服するだけです。

※薬の副作用の既往、妊娠中・授乳中などの方は除菌ができないことがあります。  
また、内服中に副作用と思われる症状がある方は速やかに受診が必要です。

問題なく内服した後は、1ヶ月半～2ヶ月後に除菌判定のための受診が必要です  
(除菌成功率は約90%です)





2ヶ月後

尿素呼気試験の結果  
でました。

陰性です。  
除菌できてますね。



よかったー!じゃあもう  
こなくてもいいですね?



内視鏡検査は定期的に  
受けてください。



除菌後も  
萎縮性胃炎は  
残存するのです。

残存する  
萎縮の  
程度に  
よっては、  
リスクは減るものの  
一定の割合で除菌後胃がん  
の報告はあるため、  
定期的な内視鏡検査は  
必要です。



いかがでしたか?

検診で「萎縮性胃炎」の  
診断、もしくは自覚症状が  
ある、家族に胃の病気の方が  
いる…などなど、

今日も  
はたらいた  
なァー。



ところで  
あの悪徳どうなった  
かほ…。

気になることがあったら  
いつでも

「おなかのお悩み相談室」へ  
ご相談ください!

～あとがき～

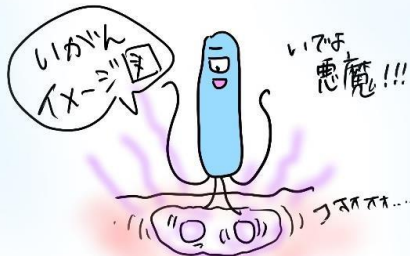
みなさま、今回のお悩み相談室はいかがだったでしょうか。  
いやーそれにしてもピロリ菌、悪いやつですねー。  
潰瘍や胃がんの原因になるなんて・・・  
怖いなー怖いなー(稲○淳○風)。



年々感染率は減少傾向にあるものの、臨床の場で稀に若年層の患者様にピロリ菌感染者がいるのを見ると、まだまだ油断はできないなあと思う今日この頃です。

感染によって起こる萎縮性胃炎の状態の患者様は、若い頃から胃が弱くて困っているという方も多いですが、中には全く無症状の方もいるため、検診で行われるX線透視検査で胃炎の疑いと書かれても内視鏡検査まで受けに来ない方が多いです。

そうして感染の診断を受けぬまま胃の萎縮が進み、ついには胃潰瘍、そして胃がんが発生するまで放置されている患者様がまだまだ多くいることはとても悲しい事実です。



若いから大丈夫、ということはありません。症状がある、家族歴がある、検診で少しでも異常を指摘された。。。それは検査を受けるチャンスです。自分の体は自分で守るのです。是非、気になる症状がありましたら病院へGo！